

平成21年度

博多区研修会 幼年教育部会

博多区研修会 テーマ

教科等で育てる授業改善の実践的授業研究

第1学年 道徳「きいろいベンチ」 4-(1)



平成21年度10月19日(月)

福岡市立 ○○小学校

授業者 ○○ ○○

1. 主題名 社会規範 4－(1)

2. 資料名 「きいろいベンチ」 光文書院

3. 主題設定の理由

- 本主題は、「みんなで使うものはマナーを守って使おうとする心情を育てる」ことを主なねらいとしている。

公共物を大切に扱ったり，人に迷惑をかけないように心がけたりすることは，社会の一員として大切なことである。しかし，今日，子どもたちのモラルの低下や公共心の欠如が指摘されている。そこで，今までの幼年期教育において規範意識が芽生え，経験を通して規範を守る自信がついてきたことから，規範意識を学びやすい素地が作られてきた低学年において，上記の主題に取り組むことは大変意義深いものである。

- 本学級の子ども達は，就学前の遊びなどの体験を通して，約束や決まりを守ることが大切であることに気付き，実行しようと努力している。例えば，教師がいなくても砂遊びの道具を取るために自分たちで順番に並んだり，クラスでの約束ができると，しっかり覚えて守ろうとしたりしている。しかし，まだ，自分本位なところがあり，何かに夢中になってしまうと，自分がしたいことだけに思いが傾いてしまい，公共物や行為にまで考えが及ばないことがある。

そこで，この時期に本主題を取り上げ，人に迷惑をかけないようにすることの大切さについて考えさせたい。

- 本時の資料「きいろいベンチ」は，2人の子どもたちが雨上がりの公園で夢中になって遊んでいるうちに，ベンチの上に土足で上がってよごしてしまい，そこに座って洋服を汚してしまい困っている人の様子に気付き，はっとしたという内容である。

本資料は，自分がしている行為が知らないうちに人々に迷惑をかけることがあることに気付かせるのに適切な資料であると考ええる。

そこで，本時指導にあたっては，導入の段階で，子どもたちが問題意識を持って取り組むことができるようにするために，公共物の使い方を思い起こさせ，本時のめあて「みんなでつかうものつかいかたについてかんがえよう。」へとつなげていく。

展開前段においては，ベンチの上からグライダーを飛ばしている友だちの気持ちになって考え，遊びに夢中になっている2人の子どもに共感させたい。次に，そのために汚れたベンチに座って服を汚してしまった女の子を見たときの男の子たちの気持ちを考えさせ自分たちの行動が他の人の迷惑になっていたことに気付かせたい。

展開後段においては，公共の場での自分の行動について振り返らせる。このとき，自分の経験を想起しやすくするために生活場面の写真を提示する。

最後に，終末においては，「公共物を大切にすること」について教師の説話をを行い，道徳的实践への意欲につなげたい。

4. 本時のねらい

みんなで使うものはマナーを守って使おうとする心情を育てる。

5. 準備 資料「きいろいベンチ」 挿絵、生活場面の写真
道徳ノート

6. 展開

	学習活動と内容	教師の支援
導入	<p>1. 「みんなで使うもの」にはどんなものがあるか考え、本時のめあてについて話し合う。</p> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>みんなでつかうものをつかいかたについてかんがえよう。</p> </div>	<p>○ 公共の乗り物に乗ったときのことなどを思い出させめあてへの問題意識に向かわせる。</p>
展開前段	<p>2. 「きいろいベンチ」を聞いて、発表しあう。</p> <p>(1) ベンチに上がってグライダーを飛ばしている時の2人の気持ちについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遠くまで飛んでうれしい。 ・ 楽しいな。 ・ もっとしたいな。 <p>(2) おばあさんと女の子が困っている様子を見た時の2人の気持ちを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どうしようかな。 ・ 謝りに行こうかな。 ・ 僕たちがベンチを汚したからこまっているんだ。悪かったな。 	<p>○ 教師が場面の挿絵を指しながら話を読む。</p> <p>○ 役割演技をして考える。</p>
後段	<p>3. 自分の生活をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ブックランドの様子 ・ クラスのボール ・ ほうき ・ 机 ・ 中庭 	<p>○ 自分の経験を想起しやすくするために生活場面の写真を提示する。</p>
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<p>○ 経験について話をする。</p>

7. 板書

めあて
みんなでつかうものをつかいかたについてかんがえよう。

きいろい ベンチ

挿絵
楽しそうな表情の男の子達

とおくまでとんでうれしいな。
たのしいな。
もっとしたいな。

挿絵
黄色い
ベンチ

どうしようかな。
あやまりにいこうかな。
ぼくたちがよごしたから
こまっているんだ。
わるかったな。

挿絵
おばあさんと子ども
を見ていると
きの表情の
男の子達

じぶんのせいかつをふりかえって



きいろい ベンチ

いままで あめつづきだったのに、きょうの
にちようびは すっかり はれあがった よい
てんきに なりました。

たかしくんと てつおくんは、あさから ちかくの ゆうえんちへ、
きのう つくった グライダーぐらいだあを とばしに いきました。

「ひくい ところからじゃ、よく とばないよ。」
たかしくんが いいました。

みると、どての うえに きいろい ベンチが あります。



「あのベンチのうえからとばそうよ。」

と てつおくんは 行って、

ふたりは ベンチの うえから

とばす ことに しました。

ベンチの うえに のって、

なんども なんども、むちゅうで とばしました。

つかれた ふたりは、すこし やすむ ことに しました。

ベンチの よこに ある ぶらんこに ならんで のりました。たか

しくんも てつおくんも、たったまま ぶらんぶらんと こぎました。

すると、そこへ 五つぐらいのおんなのこをつれた おばあさ。





んが
きました。おんなのこは

ベンチに かけよって こしかけ、

「おばあちゃん、はやく はやく。」

と よびました。

「まあ、まあ、こんなに どろだら

けの ベンチに すわって、スカーすかあ

トとが どろだらけですよ。」

おばあさんは おんなのこを た

たせ、どろを はたいて います。

たかしくんと てつおくんは、はっ

として かおを みあわせました。